

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制

情報教育センター

(責任者名) 三浦佳代子

(役職名) 情報教育センター センター長

自己点検・評価体制における意見等	
自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	本プログラムは、令和6年度より全学科を対象とした選択科目として開講された。履修状況は、令和6年度は101名、令和7年度は132名であり、年々履修者が増加傾向にある。今後は、より多くの学生がデータサイエンスおよびAIリテラシーを体系的に修得できるよう、令和8年度からの必修化を検討している。
学修成果	授業後に行うGoogle Formによる授業アンケートの結果より学修成果を把握する。学習成果は情報教育センター等の関係教員間で報告し、フォローアップ体制のあり方や学修の方略について議論する場を設ける。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	授業科目に関しては、科目担当教員が毎回授業後に学生に提出させるGoogle Form等にかかれた意見について随時把握し、定期的に教員間での報告がなされている。 また、毎学期「授業アンケート」との名称で「授業評価」を実施しているため、そのなかで自由記述欄に記述される学生の意見等を把握する。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	本学では、授業アンケートにおいて、「授業に満足し、後輩や友人に勧めたいと思う」という項目を設けており、受講者の満足度および推奨度を定期的に把握している。これらの結果を分析し、学生の肯定的な評価や改善要望を次年度の授業設計に反映することで、プログラム内容の質向上と履修者数の拡大を図っていく。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	教員プログラムの対象科目である「AIとデータサイエンス入門」は令和6年度より基礎科目の選択科目として開講した。令和8年度からは必修科目に変更し、履修率の向上を図る予定である。

学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	令和9年度に、教員プログラムを修了した学生が初めて卒業し、就職をする。キャリア支援課と連携をしながら本プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価について情報収集をし、見直しに活用する。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	キャリア支援課と連携しながら、教育プログラム内容・手法等について、産業界からの意見を収集する。また、本プログラムについての評価、提言を外部評価委員に依頼し、意見を収集する。これらの情報をもとに見直しを進める。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	全学科の学生が学修を楽しみ、興味を持ちながら進めることも重視している。リテラシーレベルのモデルカリキュラムに則りつつ、実社会の状況に適応したデータを活用した授業を提供し、学生たちの関心を高める。そのために、身近なAIやプログラミングの実践内容も講義で取り入れ、学生たちが楽しみながら学べる環境を整える。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載	データサイエンス・AIに関する入門レベルの教科書をもとに授業を展開している。本教科書をもとにスライド教材や動画教材を作成することで、予習や復習を容易にし、すべての履修者が授業に適切に追いつけるようする。課題は、講義内容の理解を確認する小テスト形式のものや、実践的なタスクを中心に配置することで、授業のポイントや学生の理解度について、教員と学生の双方が確認しやすい設計を心がけている。